



宮城県登米市にある長沼フートピア公園の桜。東北にもようやく春らしい空気が漂い始めた4月27-28日、この公園をスタート地点に「東北風土マラソン&フェスティバル」が開催され、全国から1,233人のランナーが参加し、復興への祈りを込めて走りました

商品を買ったという支援

今から3年前の2011年5月、東日本大震災の被災地にはゴールデンウィークなどの休暇を利用して、全国からたくさんの方々がボランティアが駆け付け、泥だしやがれき撤去などの活動を行いました。社会福祉協議会に設置された災害ボランティアセンター経由で支援活動に赴いた人の数は、震災直後から2014年3月末までに約135万人。他にも多くの方がNPOなどのボランティアに参加し、「新・ボランティア元年」などと称されました。

震災から3年以上が経ち、徐々に被災地へ足を運ぶ人が減る一方、支援の方法は多様化し、被災地での活動や寄付だけでは足りない様々な支援方法が生み出されてきました。

長期的な復興支援の形として、被災した地域の商品を買おうという方法があります。被災地で生まれた商品の中には、震災前から続く伝統的な手仕事や卓越した技術に裏打ちされた工業製品、東北の自然に育まれた美味な食べ物などがあり、それらを買うことで気軽な支援活動につながります。

シビックフォースがこれまで「NPOパートナー協働事業」の枠組みでサポートしてきた団体のなかにも、魅力的な商品を

生み出すNPOや企業があります。たとえば、宮城県気仙沼市で、被災した母親の就業を支援する「ピースジャム」は地元野菜や果物を使ったジャムや縫製品を販売しています。このほか三陸の牡蠣のオイル漬け写真下や地元食材を使ったお菓子を売る「ピースネイチャーラボ」は、地域ならではの商品づくりに力を入れています。

また、シビックフォースが立ち上げた（一財）東北共益投資基金が支援する宮城県石巻市の「雄勝硯生産販売協同組合」(写真右上)や、小魚とぶどうの搾りかすを使った「フイヤベースを生んだ」「三陸いりや水産(株)」、魚の形のキーホルダー(写真左上)などを作る「Onagawa factory」も、良い商品を世に出そうと奮闘中です。

38回目のマンスリーレポートではこれまでサポートしてきたNPOの「その後」に注目するとともに、5月13日に東京で開催される国際シンポジウムについてお知らせします。



Monthly Topics

Civic Force の複数の事業の中から、注目のトピックをお知らせします。

ピースジャムの工房完成

今年29日、宮城県気仙沼市内で、地元の食材を使ったジャムと縫製を製造するための工房の開所式が開催されます。この工房では、震災で被災した母親たちが働く予定で、地域に開放する工房内のカフェと公園も、年内には完成見込みです。

工房建設を手掛けるのは、気仙沼で生まれたNPO「ピースジャム」。東日本大震災発生直後、支援が滞りがちだった



ピースジャムの佐藤さん（右）。震災当初は、赤ちゃんや子どもたちに物資を届ける活動を展開



ピースジャムのスタッフをはじめ、全国から手伝いに来たボランティアや地元の若者によって建設中の工房。たくさんの思いが詰まった建物が、今月末に完成します

た在宅避難の赤ちゃんへおむつやミルクを届ける活動を始め、現在は、ジャムや縫製品づくりを通じて働く場を失った母親の就業を支援しています。

シビックフォースは、東日本大震災支援「NPOパートナー協働事業」の枠組みで、2012年2月からピースジャムの経営支援を続け、アドバイザーを派遣するなどして支援を継続してきました。

活動開始時から一貫して「赤ちゃんのお腹は空かせない」をスローガンに掲げてきたピースジャム代表の佐藤賢さんは、「愛情の源である親が元気でなければ子どもも元気になれません。親の元気な姿を見て育った子どもたちが、将来大人になって、より豊かな地域づくりにつながれば」と言います。



ピースジャムのジャムは、ブルーベリーやトマト、玉ねぎ、にんじんなど8種類（160グラム、税込720円～820円。※2014年5月現在）。写真右は「PEACE JAM ハツコイ×オレレンジ」。購入はウェブショップから！
<http://peacejam.shop2.makeshop.jp/>



工房は、2013年10月から、建設が始まり、気仙沼市内外のたくさんのボランティアの手によって完成しようとしています。竣工とともにピースジャムのジャムづくりは、より安定的に行えるようになりまします。ピースジャムでは、本格的なジャムづくりを通じて、コミュニティの継続を図るビジネスモデルの確立を目指しています。

「気仙沼じゃらん」発行

シビックフォースが昨年設立にかかわった一般社団法人「リアス観光創造プラットフォーム」が4月末、おすすめの食事や観光スポットなどを紹介する「気仙沼じゃらん」を発行しました。シビックフォースは、同紙の発行に協力。気仙沼市内の観光施設や、近隣の仙台市、岩手県一関市、道の駅などで無料配布されています。気仙沼市のホームページからもダウンロード可。
<http://www.city.kesennuma.lg.jp/www/contents/1396916667762/index.html>



南三陸町着陸訓練実施

シビックフォースのパートナーNPO「オールラウンドヘリコプター（ARH）」は、4月19日、南三陸町のベイサイドアリーナ前のヘリポートで医療用多目的ヘリコプターの着陸訓練を実施しました。このヘリポートは、南三陸町唯一の総合医療機関である南三陸診療所に隣接し、搬送の要請があっ

た際は迅速に高度な医療機関まで搬送できます。ARHはすでに南三陸町と「災害支援等に関する協定」を締結しており、ヘリ搬送の他、防災面での活用も期待されています。この日は訓練に合わせて、南三陸町の佐藤仁町長、佐藤孝志危機管理課長らが搭乗し、ヘリの機動性を確認しました。

森里海研究所が完成

宮城県気仙沼市で環境教育やまちづくりを手掛けるシビックフォースのパートナーNPO「森は海の恋人」は、4月26日、「舞根（もうね）森里海研究所」の竣工式を開催しました。研究所は、床面積約490㎡、一階に採苗施設、二階には研究スペースや会議室などを備えた研究・教育の拠点となる予定です。「森は海の恋人運動」「森里海連環学」の理念のもと、次の世代を担う子どもたちを対象とした各種事業を実施するほか、国内外の研究者・学生が集う施設となることが期待されています。



目標に突き進む人とともに

本業の傍ら、シビックフォースのアドバイザーとして、東北のNPO・ピースジャムの事業計画作りのお手伝いをしています。

石川県で生まれ、大学卒業後は地元地方銀行に勤務。営業を経て融資部門で信用調査や業務設計などに携わった後、株式会社電通国際情報サービスで主に地域金融機関向けのサービスの企画や業務改革のコンサルティングなどを行っています。

金融や中小企業の支援関係者などが集まってできた一般



Civic Force アドバイザー
江上 広行 さん

Face to Face

Civic Force の活動は、多くの企業や NPO、行政などの皆様に支えられています。

パートナーからの旬のメッセージをお届けします。

財団法人東北共益投資基金のアドバイザーとして東北支援に関わったのを機に、シビックフォースの依頼を受け、現在、毎月ピースジャムを訪れています。事業目的の確認やお金の管理方法、働くお母さんたちとの協議の必要性、顧客目線を取り入れる点など、スタッフの皆さんが一歩前に進むための後押しをさせてもらっています。

5月末には、託児所とシヤム製造施設を兼ねた工房が完成します。一時は将来の事業の方向性に迷う時期もありましたが、佐藤賢代表やスタッフの皆さんと昼夜語り合うなかで、戸惑いや不安を抱えながらも成し遂げたいイメージを持ち、前に進んでいく力強さに驚き、感銘を受けました。

本業とは別にNPOや地域づくりのアドバイザーをする前例は私の職場にはありませんでしたが、これまで本業で培ってきた知識や得意分野が、志ある人の役に立てることが嬉しく、今後の出会い・展開を思うとワクワクします。



完成間近の工房の前に立つ佐藤さん（左）と江上さん

2014年5月9日現在実施中の東北支援事業の一部をご報告します。

中長期復興支援事業

Civic Force では、支援活動の中で見えてきた被災地の課題解決に向けて、さらに腰を据えて取り組むため、2012年夏から「中長期復興支援事業」を続けています。各事業の進捗状況をご報告します。
<http://www.civic-force.org/emergency/higashinohon/choki/>

■観光再生プロジェクト

～“訪れたいまち”に向けた官民協働の仕組みづくり
宮城県気仙沼市が復興重点事項に掲げる“観光”の戦略立案をサポートし、2013年7月に一般社団法人「リアス観光創造プラットフォーム」の設立に参画。現在は、同団体のHP制作、理事会や部会への参加などを通じて継続支援中。今年4月には「気仙沼じゃらん」の発行をサポート

■命をつなぐ翼プロジェクト

～ヘリを活用した緊急医療搬送支援
医療過疎が進む沿岸被災地で、医療搬送用ヘリを導入し、高度医療機関へのアクセス改善を目指す。2013年10月の本格運航開始後、要請に応じて患者を搬送。行政と連携した防災訓練など、緊急災害時に空からの緊急支援として活躍できるよう準備中。4月には南三陸町で着陸訓練を実施

■緑の“環”プロジェクト

～持続可能な林業と木質バイオマス活用を通じて地域を活性化
木質バイオマスの利用を通じて持続的な社会の構築を目指すプログラム。地元企業やNPOと協力し、個人林業者の育成や木材集積場の運営、地域通貨の試験的利用の面でサポート。3月末、気仙沼市内にバイオマスパワープラントが竣工

■共“還”まちづくりプロジェクト

～地域発・住まいとしごとの創造的復興チャレンジ支援
被災地のNPOや自治体、専門家などと協力し、すでに集団移転を決めた地域の新しいまちづくりを支援。2014年3月まで支援を続けた宮城県気仙沼市の小泉地区や大沢地区では、すでに集団移転の予定地が決まり、造成工事が進み中、引き続き住民間の話し合いを継続的に実施

■夢を応援プロジェクト

～奨学金 × 地域発の教育プログラムで若者サポート
東日本大震災の影響で就学継続が困難な状況にある被災地の高校生が社会人になるまで、月3万円の奨学金を給付。2014年度も野外教育プログラムや奨学生交流会を開催予定



NPO パートナー協働事業

被災した人々が地域の復興に向けて主体的に取り組む事業をサポートしています。2011年4月からこれまでに37団体と49事業を実施。2014年5月現在、2件の事業を展開中です。
<http://www.civic-force.org/emergency/higashinohon/npo/>

- リアス観光創造プラットフォーム：気仙沼市の観光戦略を具現化するため、パイロット事業などを実施中
- nina 神石高原：福島被災者に対し広島県への集団避難と移転先でのコミュニティ維持再生を支援

東北支援
NOW

5/13 (火) 国際シンポジウム開催
「災害時の真のリーダーシップとは
～東日本大震災・アジアの経験から」

- 日時：2014年5月13日(火) 13:30 開場、14:00 開演
- 会場：国連大学エリザベス・ローズ会議場
- ※地図：<http://archive.unu.edu/access/>
- 費用：入場無料
- プログラム

14:00 - 14:30 オープニング

大西健丞 アジアパシフィック アライアンス (APADM) CEO
/ シビックフォース代表理事

塩崎恭久 衆議院議員

石兼公博 外務省国際協力局長

サイド・ファイザル アセアン防災人道支援調整センター所長

14:30 - 15:30 セッション1: 3.11 東日本大震災からの学び

～各セクターの“協働”を振り返る

岡本全勝 復興庁統括官

根木佳織 シビックフォース 事務局長

～東日本大震災でのビジネスセクターの貢献

太田至計 (株)ハート・インターナショナル代表取締役社長

～福島原子力発電所事故からの学び

塩崎彰久 福島原発事故独立検証委員会 WG メンバー

15:30 - 16:00 ディスカッション

モデレーター：桑名恵 立命館大学 准教授

16:00 - 16:15 休憩

16:15 - 17:10 セッション2: 災害対応のリーダーシップ

ファイザル・ジャラル APADM 代表理事

大西健丞 APADM CEO / シビックフォース代表理事

ハリ・スサント アセアン防災人道支援調整センター研修生

下平拓哉 海上自衛隊 一等海佐

泉貴子 東北大学 特任准教授

17:10 - 17:40 ディスカッション

モデレーター：村尾信尚 関西学院大学大学院教授、
NEWS ZERO メンキャスター

17:40 - 18:00 総括

ウイン・オマール アセアン防災人道支援調整センター

茶野順子 笹川平和財団 常務理事

ファイザル・ジャラル APADM 代表理事

18:15 - 20:15 懇親会 (参加任意) 参加費 2,000 円

■ご参加のお申し込みは参加申し込みフォームからお願いいたします。

<https://docs.google.com/forms/d/1vPzHVqqyqZwAcVKgDjA2ppIDCnKfrbaqq8UEwTDfzTY/viewform>

共催：一般社団法人アジアパシフィック アライアンス、公益社団法人シビックフォース

協力：公益財団法人笹川平和財団、ASEAN 事務局

国際シンポジウム開催

来る5月13日、東京の国連大学で「災害時の真のリーダーシップとは—東日本大震災・アジアの経験から—」をテーマに、国際シンポジウムを開催します。東日本大震災を経験した行政、民間企業、NPOの

立場から、それぞれが果たしてきた役割やセクターの垣根を越えた協働の成果などを振り返るとともに、福島第一原子力発電所の事故当時の対応や今後の展開などについて、参加者間で共有します。そして、災害対応に当たって求められるリーダーシップについて、各組織のリーダーと意見を交わし、来たるべき次の災害に向けて、どのようなリーダーシップを目指すべきか、議論を深めます。詳細は左記の通り。

気軽に「かざして募金」

月々の携帯電話の利用料金の支払いと一緒に寄付できる「か

ざして募金」。1000円から気軽に寄付でき、毎月定額寄付も可能です。対象OSはアンドロイド4以上。Googleプレイより無料でダウンロードでき、ソフトバンク以外のユーザーも利用できます。



1日1回1クリック

1日1回1クリックするだけでできる社会貢献があります。詳しくはホームページまたはこちらのURLからご覧ください。

■PSCクリック募金

<http://www.psc-inc.co.jp/clickdonation/index.html>

■ユニテッドヒーブル基金

<http://www.clickbokin.ekokoro.jp/139.html>

■「gooddo (グッドウ)」

<http://bit.ly/17Xr7N3>

「次への備え」は
企業の皆様とともに

シビックフォースでは現在、次の大規模災害発生に備え、平時からより多様な企業や団体との連携関係の構築に努めています。法人賛助会員として活動を支えてください。

<http://www.civic-force.org/about/membership/>

1日33円からできること

次の大規模災害に向け、平時から備えておくために、皆様の力が必要です。マンスリーサポーターとして、毎月定額(1000円単位)を「寄付した」でなく、大規模災害にとともに備えてください。

■銀行：三井住友銀行 青山支店 普通 6953964

■ゆうちょ：00140-6-361805

(上記いずれも口座名義は「トウキョウマシナリシビックフォース」)
■クレジットカード：ホームページ「オンライン募金」をクリックしてください。

https://bokinchan2.com/civforce/donation/bokin/page1.php?bokin_type=donation

※毎月11日前後に発行しているマンスリーレポートは、

<http://civic-force.org/news/monthly/> からご覧いただけます。